

学校法人 名古屋電気学園 愛知工業大学名電高等学校同窓会

同窓会だより

発行所 愛知工業大学名電高等学校同窓会
〒464-8540 名古屋市千種区若水3-2-12
TEL (052) 721-0311 (代表)



加藤 訓 会長

第3号発刊にあたり

全会員に同窓会だよりを配布 加藤訓会長、学園創立100周年 記念事業にも積極的支援等を強調

東日 本大震災により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。私ども愛工大名電高校「同窓会」として心ばかりの義援金を送りました。一日も早い復旧、復興を願っています。

ホームページをリニューアル

さて、皆様のご協力により復刊しました「同窓会だより」は、今回第3号になりました。1、2号は費用の関係で全会員に配布することができませんでした。皆さまからの要望が多く今回は全員の方に届けることにしました。ご拝読ください。

なお、ホームページをリニューアルし、創刊当時の「エシキ」をはじめ「同窓会だより」、「学園だより」などの

学園百周年記念館 完成向け建設着手

学園は来年の創立百周年記念事業として造る「学園百周年記念館（仮称）」の地鎮祭を七月十八日、建設地の名古屋市千種区内の若水八草キ

情報掲載しています。是非ご覧ください。学園の百周年事業の柱であります記念館の建設も順調に進んでいます。この記念館建設費の一部を同窓会として積極的に支援していきます。近々学園より募金の趣意書をお届けする予定です。なにとぞ趣旨をご理解いただき、協力のほどよろしくお願ひします。

会員名簿作成取りかかる

また「同窓会」会員名簿の作成にも、取りかかっています。百周年に相応しい内容にしていきたい、と思っています。ご賛同ください。皆様の益々のご健康とご発展を祈っています。

ヤンパスで行い、建設に着手しました。完成は来年春の予定です。



記念館(右側建物)の外観イメージパース図

記念館は、五階建て延べ床面積約七千平方メートル。学園に係わる資料等を展示するメモリアルギャラリーのほか、吹奏楽部合奏室（兼記念ホール）、同部パート練習室、体育館、専門学科の実習エリア等を設ける予定です。学園は、同記念館など各記念事業の資金の一部に充てるため募金活動を行っています。

百周年実行委新体制決まる

百周年実行委員会の体制が、新しく下の様に決まりました。

(敬称略) は新)



新しい百周年実行委の皆さん(前列右から2人目葛谷委員長、左隣に野牧名誉理事、加藤会長)

会報の題字は、後藤淳理事長に書いていただきました。

- 百周年アドバイザー
野牧一雄(名誉理事)
- 加藤 訓(会長)
- 委員長
葛谷捷臣(副会長)
- 副委員長
長尾楯夫(監事)
- 副委員長代行
近藤春彦(理事)
- 委員
羽佐田修二(理事)
- 堀江 充(理事)
- 今津 孝(理事)
- 道木峰男(理事)
- 安島将門(理事)
- 磯貝喜与二(理事)
- 永井広明(理事)
- 東 伸二(理事)
- 柏 太輔(理事)
- 星野孝一(理事)
- 事務局長
平田俊之(理事)
- 事務局
竹松 宏(事務局)
- 会計
三宅 覚(理事)
- 前田 賢(理事)

も熱かった！

高らかに語る

め12人の先生、加藤訓会長ら同窓会事務局の4人に至る各時代に教壇に立ち、学校と苦楽を共にして思い出」などを話題に語っていただきました。

今回のメインは第一回は座談会です。母校の北館会議室で、下の皆様にご出席いただき開催しました。



このページは、愛工大名電高等学校同窓会へ関心や理解を深めてもらうため同窓会、同窓会会員の近況、活動などをお伝えしています。

座談会

座談会開催に当たり、まず同窓会から一言



野牧名誉理事長 来年の学園創立百周年に合わせ、「同窓会だより」を復刻、第2号まで発行しました。会員の関心も高く、第3号を全会員約三万五千人に配布することにしました。かつてお世話になった先生のお顔やお話で、紙面を飾ればと思います、企画しました。本日はお集まりいただき、喜んで

います。



加藤同窓会長 本日は十二人の懐かしい先生にお集まりいただき、感謝しています。ホームページも再開しましたが、紙面で後世に残すのが望ましいと学園の協力でかつての同窓会報「エレキ」を昨春秋に「同窓会だより」として復刻しました。今回は「同窓会だより」を会員にさらに身近なものにと、座談会を考えました。私は創部さ

り、後藤鉦二先生(初代名古屋電気学園理事長)から「卒業生の面倒をみてくれ」と助手を言いつかり職員になり、愛工大附属中学



長尾先生 旧制愛知県立工業専門学校(現名古屋工業大学)の担任の紹介で、昭和二十二年七月に入りました。先生としては出席者の中で一番古

いかな。校長を務め、最後は参事でした。



古田先生 昭和十七年に名古屋電気学校に入り、二十年三月に卒業し、後藤鉦二先生(初代名古屋電気学園理事長)から「卒業生の面倒をみてくれ」と助手を言いつかり職員になり、愛工大附属中学

教頭で終え、在職期間は五十年を数えます。



中村先生 旧制愛知県立工業専門学校を卒業して一時、新制中学校教員をした後、中部電力に勤務、母校の教授の推薦で先生に復帰。定年後も寂しいと、非常勤講師を三年して退職しました。



近藤先生 縁あって昭和三十四年に奉職しました。その年、(死者四千六百余人を出した)伊勢湾台風救援へ行った記憶があります。教頭を務め最後は校長補佐でした。



生田先生 学園創立五十年記念式典を金山体育館(名古屋市)で行った昭和三十七年に入り、本校初の普通科第一期生を担当しました。



藤城先生 昭和三十八年の生徒急増期に就職し、一クラス六十

七十人という時代で、三十二年お世話になり、その間に進学指導をやりました。



大澤先生 愛知県体育協会の役員だった鉦二先生や運動(フエンスング)をしていた関係から、学生のまま開催の決まった第五回愛知国体の事務協会を手伝った。卒業後、名古屋商工会議所に就職したが、「運動やるなら戻ってこい」と言われ本校に入りました。



高木先生 お世話になった時は「長く勤めたい」と思っていました。勤めたいと思つていましが、義父の会社を手伝うため退職、社長も経験。十六年後、講師で復職し七十歳まで勤めました。



太田先生 英語を教えたが、途中、免許のある社会科もやれと言われ教壇に。株なんかも分からず、授業中は震えていた。英語の授業に戻ると安堵した覚えがあります。

【出席者】(順不同、敬称略)

長尾正男(昭和22年7月 - 平成6年3月)、古田和義(昭和20年3月 - 平成9年3月)、近藤孝(昭和34年4月 - 平成16年3月)、大澤文男(昭和30年6月 - 平成9年3月)、中村正雪(昭和37年11月 - 平成4年3月)、中野正紀(昭和39年3月 - 平成18年3月)、横地徹(昭和43年4月 - 平成22年3月)、生田銀朗(昭和37年4月 - 平成21年3月)、藪武光(昭和38年4月 - 平成13年3月)、藤城修三(昭和38年4月 - 平成11年3月)、太田道治(昭和31年3月 - 平成10年3月)、高木信一(昭和24年1月 - 平成11年3月) 同窓会 名誉理事・野牧一雄(昭和27年4月 - 平成11年3月) 会長・加藤訓 理事・羽佐田修二(昭和39年2月 - 平成23年3月)、平田俊之(昭和46年4月~) ()の年月は就職、退職時期。定年後の非常勤講師期間を含む。

先生も生徒

懐かしい先生方

第1回の座談会は、長尾正男・元校長先生はじです。名古屋電気学校から現在の愛工大名電高校きた先生たちばかりです。第1回は、「学校との

待遇も違い、話に出ていたすぐに辞めた先生は僕らやそれ以降はいませんね。皆さん、学校を創り、発展させた先代の後藤鉀二先生、続く後藤淳先生には特別の思いがあるのでは。長尾先生 口では言えないくらい「怖い」ですね。だから最初に、鉀二先生に何を言われても文句をつけないと、最初に腹をくくりました。



横地先生 入る時、後藤淳先生の面接を受けた記憶があります。



中野先生 愛知工業大学電気科を卒業し、縁あって就職。藪先生と同じように天気が悪い日は教室が暗かった覚えがあります。



藪先生 保健体育担当でした。入った時、同期で辞めた先生の数や電気があるのに蛍光灯がないのに「びっくり」というような時代でした。

古田先生 私は可愛がられた。宿直もよく一緒に、「横へこい」と、子どものように抱きかかえられて寝たことが、何回もありました。先生とは剣道もやり、たたかれました。腹を立てた力任せにたたかいたので、「古田は痛くていかん」と言いながらも相手をしてくれました。几帳面、真面目で、父親以上の存在でしたね。藪先生 ある時、鉀二先生に「藪、ちよつと来い」と呼ばれた。またしかられるのかと思ったら「藪、生徒を教えるのは情熱、熱血だぞ。先生は休むなよ」と諭されました。その言葉でハツと思ひ、一年間休まず生徒に情熱、熱血で接し、クラスをトップクラスにした覚えがあります。長尾先生 そこに、今の愛工大名電がある。野牧先生 卒業の昭和二十七年、先代に就職先を聞かれ、「知らない所へ行く



昭和46年のピンポン外交の世界卓球選手権大会での後藤鉀二先生

な。俺が世話してやる。履歴書置いて田舎(木曾)で待て」と言われた。電報でお宅へ行くとお様(後藤さん)から「どうぞお応接室へ」と言われ、飲んだこともない紅茶が出てきて雰囲気が違うなと思っていたら、オヤジさん(鉀二先生)が来て「お前は学校に残れ」。いやと言えない人なので「ハイ分かりました」と、返事した覚えがある。長尾先生 それには話があつて、鉀二先生は元から野牧さんを先生にするつもりだったと聞いています。高木先生 クラブの「工作部」部員を連れて山間地を回り、電気器具を修理する活動に鉀二先生も同行、地区住民慰安のため映画を見せている間に、住民に講演したりしていた。



伊勢湾台風後の被災地で救援活動をする生徒

横地先生 僕にもこんな思い出が。昭和四十三年三月に就職が決まり、早めに学校に顔を出したんです。生田先生 後藤淳先生もすごい。昭和四十年代前半の第一次生徒急増期には高校に何とか入りたい生徒で中学も一学年四クラスまで増え、優秀な生徒も多かつた。その後、減少すると生徒、クラスも年々激少。中学をやめた方が経済的に楽と思つたのに、絶対つぶさない。淳先生は、「あるものを無くすのは簡単。守り抜くのが難しい」と守り抜き、また、今日の中学の隆盛を招いたのはすごい。



昭和43年の選抜大会で甲子園初出場を果したし開会式で入場行進をする野球部選手



すると淳先生が、「暇か」と聞くので、「ハイ」と言つと、「野球部が初めて選抜で甲子園に出る。今から近所の応援バスが出るからそれに乗って応援に行け」と言われ、「近所のバスでは、顔を見たことがないけど、あんただれ？」と伊藤洋品店のご主人に聞かれ、それから勝ち進み三回も応援に出かけることになり、先生より先に洋品店主と顔見知りになった。両先生とも、すごいですね。皆さんのいた頃の学校や生徒さんの様子は。

高木先生 僕の時には生徒数が約三千人。電気科の授業で木造校舎の教室と教室の間に扉を作り、二クラス同時に教壇に立ったという思い出がある。後者は声が聞こえなかったのでは：申し訳なかった。

藪先生 僕は七十人クラスを数年間受け持ち、授業は毎週、昼間二十時間、夜間八時間の合わせて二十八時間やっていた。

中野先生 入学生が多くてクラブの部室が教室になり、雨漏りの水が下まで落ちてきたことも。教室は元気な生徒で壊されないような手作りの頑丈な机とイスで埋まり、歩けなかった。

大澤先生 本校へ入ったころ、軍隊経験のある先生が生徒に「バカヤロー」としかりつけ、生徒は直立不動の姿勢で聞いているのを見て、ものすごい所へ来たと思った。でも、しかる方もしかられる方も理由が分かっていたし、親も納得していましたね。

今の若い教職員はかつて学校の台所事情が厳しかったことを知らないのでは。

太田先生 本校の経済状況が厳しく、ポーナスが出なかつた時もあつたぐらい大変でした。

長尾先生 鉦二先生に支払い伝票のサインをもらわないと、お金が出ない。毎朝七時ごろ、必ずトイレに行かれるので校長室の前で

待っていると用を済ませた先生が「用があるなら入つて来い」という。これを外すと、もう会えないので必死でした。

藤城先生 組合も結成しましたよ。私学助成も含む教員を取り巻く環境改善などが目的でした。

生田先生 私が委員長を務め、組合員は数人でしたか。

藤城先生 改善はされたが、組合自体はうまくいかなかつた。

野牧先生 当時、全県の私学にそつした波が押し寄せていた。鉦二先生の「時流に合った流れをつくつた方がいい」との考えに沿い先生から出ていたクラスの受け持ちなどの問題点改善に努めた。全県的には世間に私学見直しのきつかけをつくつたと思つている。

「教職員家族慰安会」など楽しいこともあつたか（上の写真）。

中村先生 喬徳館ができた時、慰安会で「忠臣蔵」のお軽勧平をやつたという覚えがある。



中村先生 喬徳館ができた時、慰安会で「忠臣蔵」のお軽勧平をやつたという覚えがある。

野牧先生 いや慰安会は前からやつてたなあ。先代がセリフから振り付けまで演出、監督を全部やつていたが、結構、厳しかった。僕も毎年、その年に起きた「十大ニュース」をやらされた。

長尾先生 ネタ（題材）も鉦二先生が考え、十大ニュースなんかも学校のこと置き換えたりしていた。

近藤先生 僕も何を題材にしたか忘れたけれど、十大ニュースで警察官の役を演じた。衣装は本物の警察から借りてきました。

大澤先生 僕も慰安会に出たのは忘れられない。野牧先生から「女形」をやれと言われ、芸者さんの指導まで受け、まじめに踊つたんです。そしたら、途中で舞台が壊れて大騒ぎになつて芝居にならなかつた。皆にいつまでも冷やかされ、大変でした。

伊勢湾台風も皆さんには忘れられない出来事のようにですが。

近藤先生 学校へ入った



座談会では事務局の平田事務局長（写真右）羽佐田理事（同左）に会場設営等でお世話になりました。

年が伊勢湾台風。生徒をトラックに乗せ名古屋市内の被災地へ救援に連れて行つたり、東山公園で倒れた大木をロープで引き上げた。

大澤先生 前に話したように鉦二先生の「救助に行け」で外へ出たら自転車置き場のトタン屋根がピュウと飛んでいく。軍隊出の先生の「伏せ」「前進」の号令で救助へ行った。被災地の先生が大丈夫とわかつたら、鉦二先生は市民を救助するよう指示したので、市民を泳いで助けたり、教職員で遺体を収容したね。

野牧先生 本校では持っていた軽トラックに「愛工大名電高救援隊」の旗を付けて、港区内でパンと牛乳を被災者に届けた。

話は尽きませんが、続きは次回とし、本日はありがとうございました。

やあ！お元気ですか

同窓会会員は現在、3万5千人を超えます。今回は実業界や政界、ボランティア等で夢を追い続けているOBを紹介します。

アフリカに職業訓練校を建設！
堀江充さん

アフリカ登山帰りの飛行機で名古屋出身の動物写真家平岩道夫さんと出会ったことが、堀江充さん（昭和37年卒）の人生を変えました。

その縁で、稲沢市にあるタンザニア教育支援のNPO法人「マライカ（スワヒリ語で天使）の翼プロジェクト」に参加しました。

同国の平均寿命は四十五・二四歳で孤児が多い。小学校七年生を卒業しても中学へ進学できない孤児達が多人数で、その自立を目的に「釣った魚より魚の釣り方を教える」支援策として、本年二月に北部のムワンザマリヤ村に校舎、職員宿舎、トイレ各一棟を完成させました。日本の市民、企業、清須市に呼びかけ集まったマシン八十台、パソコン百台を使い、百六十人の新入生が縫製、パソコンの技術、知識と中学教育を学んでいます。



この規模を上回る職業訓練学校第二号校建設と小学校の校舎建設に向け飛び回る日々です。

今年四月の瀬戸市議会選挙で三選を果たしました。さらに選挙後の臨時市議会で副議長に就任したのが東伸二さん（昭和52年年卒）。ちよとど市役所二階にある議会で東さんをお訪ねしたのが、本会議で選ばれたばかりの湯気の出ているような時でした。本会議や挨拶回りと慌しさの中、こやかに応対を。まさに爽やか議員にびつたりです。

市民のために汗を流す日々！
東伸二さん



大手自動車メーカー社員から政治家へ転身、

お話を聞くと本人の実家は政治と無関係。「ならどうして」と問いかけると、お世話になった人が瀬戸市議を退くのでその後継にと言口説かれ、二十三年間のサラリーマン生活に別れを告げ、政界に転身。収入も減るため家族に心配する声もあつたとか。が、「お金に執着しないタイプ」と、未知の世界に敢然と飛び込んだ。

業界で家業を守るため日々奮闘
柏 太輔

本社（名古屋市中区）内で目にするのが「誠意技術 勇気」という文字。聞くとも一代で電気工事を築いた祖父の残した言葉。

議員になると体に障害を持つ人用のトイレをいち早く公共施設に設置と、市民の目線に立った活動を続けた。「三期目は万全」と言われた今回の選挙では、定員二六に対し十九番目で当選。「政治不信に対する市民の厳しい目を感じた」とこの時ばかりは厳しい顔。副議長就任で、公式行事出席もさらに増え、休む間もなさそう。でも、市民に見える議員活動、東日本大震災を他山の石に市の防災計画の練り直しを、と、やる気満々です。そして一番大変なご家族に対し、「本当に感謝しています」の言葉を忘れませんでした。



それを胸に日々飛び回っているのが、柏太輔さん（平成4年卒）。現在、

父親が社長を務めており、その後を継いでいつか経営を担うことになる。そのためか、学校卒業後、群馬県内の同業会社で「修業」。そこで営業、経理、工事入札と業界のイロハを学び、「仕事の取り方から工事の積算までやらされ、今ではありがたい」と振り返る。業界は、公共事業縮小等で大きく様変わり、電子入札が幅を利かす時代だ。そのうえ、景気の先行きも不透明とあり、電気工事業界も大手も交え、仕事を取り合うという厳しい状況という。こんな時、当時は苦しかった部活のバレーボールで得た試合度胸、人間関係等が役立つている。趣味は、なんと「阿波踊り」です。毎年、名古屋まつりに仲間と参加して、エネルギーを発散していると笑う。

同窓生ニュースー後輩たちは頑張っていますー



今年の夏の甲子園大会は西東京代表の日本三高が全

国制覇を果たしました。わが母校野球部は甲子園を目指しましたが、決勝戦で至学館高校に惜敗、出場を果たすことが出来ませんでした。今年のチームは、投・攻・守のバランスが良く期待が大きかっただけに、とても残念でした。

野球部は昭和三十年に創部し、五十五年になります。この間、春八回、夏九回、甲子園に出場し、平成十七年の春の選抜大会では、悲願の全国優勝を果たすなど輝かしい成果を残しています。

野球部のOB会員も、千人(女子マネージャー含む)を超え、野球で学んだチームワークなどを、社会で生かしています。卒業後プロ野球に進んだ人も多くいます。この中にはプロ野球史に残る活躍をしている選手もいますが、野球では裏方の審判員やスカウトなど目立たないところで活躍している人もいます。

今回、この紙面を借りプロ野球界で仕事をしている後輩諸君を、紹介させていただきます。

ます。

昭和57年卒 中村 稔 (審判部長)

昭和57年卒 山本幸二 (巨人編成部長)

59年卒 安達俊也 (オリックス編成部)

62年卒 山崎武司 (楽天 選手)

平成3年卒 伊藤栄祐 (日本ハム編成部)

4年卒 深谷 篤 (審判員)

7年卒 三輪敬司 (中日コーチ補佐)

11年卒 石堂克利 (ヤクルト編成部)

12年卒 荒井貴之 (巨人 Gキーパー)

14年卒 石田淳也 (ロッテ 選手)

16年卒 堂上剛裕 (中日 選手)

17年卒 柴田亮輔 (オリックス 選手)

19年卒 堂上直倫 (中日 選手)

23年卒 谷口雄也 (日本ハム 選手)

そして、イチロー(鈴木朗 平成4年卒)はメジャーリーグのシアトルマリナーズで活躍しており、また、プロ野球で名球会入りなど輝かしい実績を残し昨年西部を退団

した工藤公康(昭和57年卒)は、野球道を極めるため現役にこだわり今なおトレーニングを続けています。

五月に仙台球場でセ・パ交流戦が行われた時、中村、山本、山崎、伊藤、深谷君五人が顔を合わせ、時ならぬOB会になったとのこと。厳しかった練習、合宿での思い出、甲子園を目指した青春時代、また母校が来年百周年を迎えることから後輩たちにぜひ甲子園出場を果たしてほしいなど、時が経つのも忘れるほど楽しいひと時でしたとの話を聞き、大変嬉しく思いました。プロ野球は新陳代謝が激しいところ、先輩・後輩協力し、「名電魂」を忘れずに精進して、さらなる活躍を願う次第です。今回はプロ野球界で仕事をしている人を紹介しましたが、プロ野球を退団した人など多くの後輩がいろいろな分野で頑張っていることを申し添えます。

私も卒業して半世紀以上になります。野球で培った人との繋がり大切に、後輩たちの活躍と、お世話になった母校の発展に皆様と共に応援してまいります。

【写真・文 奥村衛同窓会副会長 野球部OB会長】

平成23年同窓会役員総会を開催

同窓会は五月二十七日、名古屋市内のホテルで、平成二十三年愛知工業大学名電高等学校同窓会役員総会を開き、本年度予算、事業計画案などを承認しました。

総会では加藤訓会長が「昨年度、学園等のご協力で懸案の同窓会だよりの発行及びホームページの更新ができました。今後、これらを同窓

会単独で行うには予算上厳しいため学校やPTAのご協力を得てめどがつき、感謝しています」と挨拶があり、続いて佐藤忍校長から「本学から愛工大ほか国立大の進学者が増え、私立大の歯学部や薬学部へも行くようになりました。また、運動だけでなく吹奏楽



平成23年度予算、事業計画を決定した同窓会役員総会

部、将棋部などの文科系クラブも全国大会へ出場。また、ロボカップ世界大会へも出場できるなど各分野での生徒の活躍が目覚ましい」との話がありました。加藤会長を議長に選び議案の審議に入り、平成二十二年事業、収支決算の報告があり、平成二十三年事業計画、予算各案、前高校PTA会長の星野孝一さんを理事とする人事案を承認し閉会しました。出席者は三十四人でした。

東日本大震災の被災者に義援金

同窓会は六月二十一日、さる三月の東日本大震災の被災者に対して中日新聞社会事業団を通じて三十万円の義援金を寄贈しました。同記事は二十四日付け中日新聞愛知総合版に掲載されました。葛谷捷臣百周年実行委員長は、「一日も早い復旧と、人の苦しみを、わが身のこのように」の精神で祈り、被災者の方々に声援を送りたいと思

います」と話しています。



学校から

世界大会、全国大会出場と、今年の夏、生徒らが燃えました。学校から校長先生の熱い意気込みや各クラブの今をお届けします。



夏休みも終わり、二期が始まり、学校では学校祭・体育祭という生徒にとって最大の行事が無事、終わりました。

今夏、各部の活躍顕著

今年の夏は、硬式野球部は残念ながら県大会の決勝戦で涙を吞みましたが、例年のように卓球部を初め多くの部が全国大会に駒を進め、活躍してくれました。中でもメカニカルアーツ部(附属中学ではロボット部)では、トルコのイスタンブールで行われたロボカップ世界大会に出場し、大学・研究所・企業等からなるシニアの部で一位という成績を、また、附属中学からも、全国大会を制し、同じくトルコのロボカップジュニア世界大会に駒を進め団体二位、個人三位の成績

を収めました。スポーツのみならず、吹奏楽・将棋など文化部の活躍が顕著に現れた夏だったと思います。

一方、部活動で頑張る生徒もいれば、勉強で頑張る生徒も増えてきました。成果は春の大学入試の結果が出るまでお預けですが、お盆の期間を除き毎日、三年生を中心に補習や自習のために登校する生徒の姿は絶えることはありませんでした。センター試験には百五十人ほどの生徒がチャレンジしてくれそうです。

教職員の資質向上図る

このように勉強・部活動とともに元氣な名電高校・愛工大附属中学校ですが、進学実績を更に伸ばし、全国大会へももっと多くの部が出場できるように生徒の持てる力を最大限に引き出し、鍛え、発揮させることができる指導者・環境が必要です。

本校の更なる発展を期し来年の創立百周年に向けて南校舎で百周年記念館(仮称)が建設されつつあります。生徒にとって、また一つ環境が整備される訳です。後は生徒一人ひとりの能力を引き出し、鍛えることができる教職員の資質の向上を図ることだと、考えております。と申しますのも、教職員の顔ぶれが団塊

の世代の先生方の退職により随分若返ってしまったからです。これからの本校の飛躍はこれら若い先生方の双肩にかかっています。同窓生の皆さんには是非変わりつつある名電を見守り、応援していただきたいと思っております。

皆さんの母校として胸を張っていただけよう私たち教職員一同、日々の教育活動に取り組まなければならないと思います。

(写真・文 佐藤 忍校長)



剣道部

今回は、全国大会に出場した将棋部などを取り上げました

われわれ剣道部は、日本古来の伝統的な文化に親しみ、剣道の特性を学びながら



部訓「威風堂々」をモットーに全国大会上位成績を目指し稽古に励んでいる剣道部員

ら、健全な身体と精神の成長をはかることを目標に日々、稽古に取り組んでいます。また、実績においては部訓「威風堂々」をモットーとして、常に正攻法の剣道を実践することで全国大会に連続出場を果たしています。

特に近年の実績では全国選抜大会・全国高校総体共にベスト8が最高成績なので今後は、それを上回る実績を目標に「師弟同行」の精神を常に持ちながら、日々精進していく決意です。

(文 顧問・島崎裕樹)

将棋部

今から二十二年前、ゲームセンターに行くお金がないので将棋同好会をつくってほしいという...これが船出であった。この時代は、東海高校の全盛で、県私学大会の時期は、東海高が修学旅行で不参加があり、四年後この大会で個人・団体1位となり、部に昇格。全国大会出場の際は個人戦で二度、団体戦は一度決勝で敗退。六年前に初めて個人戦(新人戦)で全国出場



全国高校将棋選手権大会で、男子団体3位、女子個人5位に輝いた将棋部(表彰式で)

も予選落ち。五年前に二十五連覇の東海高を破って全国大会・団体戦に初出場第3位、さらに個人戦(新人戦)が第3位でした。昨年から東海三県(団体戦)で三連覇。今年の県大会は、予選、決勝トーナメントはすべて30の完全優勝で五年ぶり、女子個人は6戦全勝で全国大会へ出場。結果は、男子団体準々決勝で麻生高を倒すが、優勝した岩手高に敗れて五年前と同じ3位。女子個人は前年度優勝者を破るが、準決勝で新人戦優勝者に敗れ、5位でした。

(文 顧問・原野照久)

ゴルフ部

一九六五年創部のゴルフ部です。日頃は豊田市のさなげカントリークラブで毎週末、合宿を行って



全国大会出場や上位入賞を目指し週末、合宿して練習に励むゴルフ部の部員

います。中部地区をはじめ全国には多くの強豪校がある中、ゴルフ場に合宿所を建てていただき、存分に練習できる環境を持つのも本校ゴルフ部だけではないでしょうか。この環境を活かし全国大会への出場や上位入賞を目指し、チーム一丸となつて練習に励んでいます。

全国大会団体戦の出場は連続二十回を数えた平成十三年で途切れてしまい、以降は十七年、十九年と何年かおきに出場するに留まっています。ここ数年は戦力も次第に整い、復活を遂げるのもそう先ではないように思われます。また、個人戦では、毎年全国大会に出場してはいますが、上位に食い込むことができず悔しい思いをしています。ただ、今年の夏は、中学

生部員(五人)が奮闘し、十年ぶりに全国大会団体戦に出場しました。今後の彼らの活躍も期待できそうです。

(文 顧問・鈴木英之)

高校PTAから

平成二十三年度愛工大名電高等学校PTAの新役員が決まりました。新役員のうち会長、副会長は次の皆さんです。

会長に杉本さん選出

【会長】

杉本美晴

【副会長・補導委員】

森遊子

【副会長】

渡邊喜美子

佐藤忍

新会長から寄せられた同窓会へのメッセージ

新会長になられた杉本美晴さんから、同窓会へ寄せられたメッセージ。歴史と伝統をつないで「...」を紹介し



同窓会の皆さま、こんにちは。お元気でますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

愛知工業大学名電高等学校が誕生して、来年平成二十四年十一月で百年を迎えます。今年九十九年目、一つの時代の節目となる年だと思っております。いつも高校に向かうと思

歴史と伝統をつないで

張つてまっすぐ前を見て挨拶できる生徒さんが多いのだらうと感心しています。それは、この長い歴史が物語る先輩方の活躍のおかげだと思っております。多くの先輩方が残してくれた歴史と伝統を今も多くの生徒さんがしっかりと引き継いで、目を輝かせながら勉学に、部活動に頑張っています。どの生徒さんの頑張

とても嬉しいものです。名電高等学校で親も子どもさんの良い経験をさせていただけたいです。高校生活での多くの行事などを通して生徒たちが経験することを、私たちPTAは温かく見守りながら、よりよい活動になるよう生徒たちを応援し続けたいと考えています。また、多くの先輩方や保護者へも情報を提供し、時代や年齢を超えて「名電高等学校」をキーワードに歴史と伝統をつないでいける役割をPTA会長としては

今年、東日本大震災など日本は大変な状況にありま

記念募金協力をお願いします

現在、来年の学園創立百周年を迎えるにあたり建設中の「学園百周年記念館」(仮称)ほか各種記念事業の一部に充てるため募金活動を行っています。寄付金の種類は、法人は1口の金額を定めず、個人は1口1万円、在学生の保護者は1口5千円です。募金期間は、平成25年8月31日までとなっています。(学園募金事務局)

編集ノート



「同窓会だより」では、来年の学園創立百周年にちなみ懐かしい先生の皆様にお集まりいただき、座談会を企画、座談会開催にこぎつけるまでが大変。皆さんに集

「お断り」紙面のお名前については、全て敬称略とさせていただきます。